

目指す授業づくりに向けて

No. 1

H26年4月30日

提案授業 4年1組 国語科

単元名：人物の様子や気持ちを考えながら読もう

教材名：「走れ」

授業者 渡邊 智穂

【成果】

- ・ ABワンセット方式のよさが実感できた。（教材文で学習したことを次時にすぐ使える、入れ子方式よりも言語活動への時間確保が容易、児童の必要感 など）
- ・ 登場人物の性格や変化をとらえる学習が、高学年での物語の「役割」につながっていく。
- ・ めあてに「中心人物ピフォア・アフターに向けて」と提示したことで、言語活動のゴールイメージが意識付けでき、今日の学習の必要感が高まっていた。
- ・ 中心人物が変化した理由を自分の言葉で書けていた。
- ・ 前時に同じ活動をしているので、見通しを持つことができ、安心して活動できていた。
- ・ ワークシートの拡大版があることで、児童が参考にすることができ、主体的な活動につながっていた。
- ・ 時間配分が適切で、発問や指示もわかりやすかった。
- ・ ポイントになる言葉は、あえて児童に発言させるようにしていたところがよかった。
- ・ 要所要所で、児童への評価を入れていたことが意欲につながっていた。
- ・ 児童は自分の考えを整理しながら発表出来ていた。

【課題】

- ・ 同じ本を選んでいるペアやグループはよいが、自分が読んでいない本での交流には、難しさがあった。交流の相手の本は読んでおくようにしておいてもよかったのでは。
- ・ ピフォア・アフター説明会の前に全体交流の時間があるので、本時での全体交流は必要なかったのではないか。
- ・ ワークシートの様式。書き方で迷っている児童がいたので、シンプルに書き表せる雛型や変化のきっかけになる言葉を書き抜けるスペースがあればよかった。
- ・ 対人物との関わりにもふれると、中心人物の変化の理由がより明らかになった。
- ・ 児童の声が全体的に小さい。もっと「伝えたい」「話し合いたい」という積極性がほしい。

【取り入れる点・次につなげる課題】

- 学習の内容や児童の実態に応じて、ABワンセット方式での単元構想も検討していく。
- 二次の学習においては、毎時間、めあてに「～（言語活動名）に向けて」と提示し、児童に今やっている学習の必要感を持たせるようにする。
- 考えをはっきりと伝え合うために、その場に合った声の大きさと話すことができるように学校全体で意識して指導していく。